

## 注目される遺物

鎌倉～室町時代の④段状遺構にともなう穴からは、円形の青銅製品が出土しました。直径は 11.2cm で周りに細い縁をもち、孔のあいた釣手がついています。表面に像や線刻は認められませんが、釣手の特徴から、鏡像又は鏡であることが考えられます。



青銅製品の出土状況（南から）

※鏡像とは ... 平安時代の終わり頃から江戸時代に寺社などに懸けて信仰の対象としたものです。

## 美作国佐良庄と高尾北ヤシキ遺跡

高尾北ヤシキ遺跡のある津山市佐良山地区は、かつて美作国久米郡に属しており、「佐良山」という荘園がありました。このことは14世紀中頃にまとめられた『神護寺略記』に、「天長3(826)年に佐良庄が和気氏の僧侶の寄進により、山城国（現在の京都府）高雄山神護寺の所領となった」という旨が記されていることから分かります。

佐良山地区周辺で鎌倉から室町時代の遺構や遺物がまとまって確認された遺跡は高尾北ヤシキ遺跡にほぼ限られることから、荘園に関わる集落であったのかもしれませんが。

## まとめ

- ・ 弥生時代中期から室町時代まで、断続的に生活が営まれてきたことがわかりました。
- ・ 古墳時代後期の集落は、佐良山古墳群の時期と重なることから、生活していた人々が造営に関わっていたことが考えられます。
- ・ 鎌倉～室町時代の集落は、「美作国佐良庄」と関係があった可能性があります。

	約10000年前	約2500年前	約1800年前	約1312年前	1128年前	837年前	684年前	419年前	154年前	111年前	97年前	34年前	現在	
	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	鎌倉	室町	江戸	明治	大正	昭和	平成・令和		
おもなできごと	・ 弓矢や土器を使い始める ・ 集落を営むようになる ・ 稲作が始まる	・ 大きな集落ができる	・ 古墳を造り始める ・ 仏教が伝わる	・ 美作国が置かれる ・ 国分寺と国分尼寺が建てられる	・ 佐良山が山城国神護寺の所領となる ・ 末法思想が広まる ・ 勝間田焼の生産が始まる	・ 後醍醐天皇が隠岐へ流される ・ 院庄に美作国守護所が置かれる	・ 山名氏と赤松氏が争う ・ 毛利氏と宇喜多氏が争う	・ 森忠政が津山藩を開く ・ たたら製鉄が盛んになる	・ 津山県が置かれる ・ 津山中学校ができる	・ 津山駅ができる	・ たたら製鉄が終わる ・ 津山駅ができる	・ 中国自動車道ができる ・ 津山市ができる	・ 勝北町、阿波村と合併する ・ 苦田ダムが完成する	・ 津山市が久米町、加茂町、勝北町、阿波村と合併する
おもな遺跡	勝央町大河内遺跡	鏡野町竹田遺跡 津山市沼遺跡	勝央町小中遺跡 津山市美和山古墳群	津山市佐良山古墳群 津山市美作国分寺跡	勝央町間山経塚	津山市院庄館跡 勝央町勝間田窯跡群	津山市岩屋城跡 津山市神楽尾城跡	鏡野町鍛冶屋谷たたら跡 津山市津山城跡	日本基督教団津山教会 旧津山中学校本館	旧中島病院	旧土居銀行本店 江見写真館	旧津山市庁舎		

← 確認した集落の時期



たか お きた

# 高尾北ヤシキ遺跡現地説明会資料

【日時】 令和4年2月16日（水）

〔午前の部〕10:30～11:30〔午後の部〕2:00～3:00

【場所】 津山市高尾 高尾北ヤシキ遺跡発掘調査現場

【主催】 岡山県古代吉備文化財センター

## はじめに

岡山県古代吉備文化財センターでは、一般国道53号改築工事に伴い、令和2年度から高尾北ヤシキ遺跡の発掘調査を行っています。

この遺跡は津山盆地南西の嵯峨山東麓に位置し、皿川が流れる平野を見下ろす丘陵上に立地します。周辺には、180基以上の古墳が分布する佐良山古墳群があります。

昨年度は高尾北ヤシキ遺跡の北側とともに高尾北ヤシキ古墳を調査しました。今年度の調査では、遺跡の南側で弥生時代中期から室町時代の遺構や遺物を多く確認しました。



高尾北ヤシキ遺跡の遠景（南東上空から）



調査地周辺の主な遺跡の分布図（1/20,000）

## 今年度の調査成果

〈遺構〉

【弥生時代中期】

段状遺構6面、木棺墓1基

【古墳時代後期】

竪穴住居10軒、掘立柱建物1棟、段状遺構16面、土坑墓1基

【鎌倉～室町時代】

掘立柱建物24棟、段状遺構14面

〈遺物〉

【弥生時代中期】

弥生土器、石器

【古墳時代後期】

土師器、須恵器、碧玉製管玉、ガラス小玉、石製紡錘車、鉄器、鉄滓、炭化した桃の種

【鎌倉～室町時代】

土師器、勝間田焼、瓦質土器、天目茶碗、備前焼、青磁、白磁、土錘、鉄器、銅滓、青銅製品



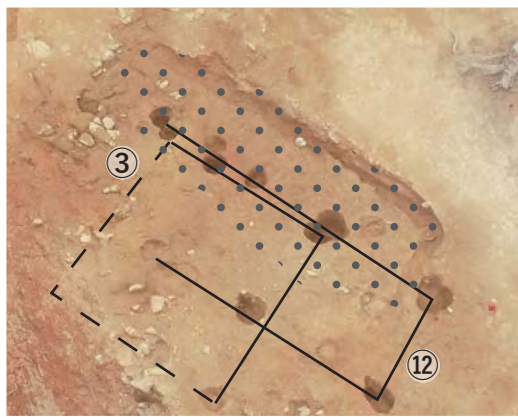
# 高尾北ヤシキ遺跡遺構全体図 (1/400)



## ① 竪穴住居

時期：古墳時代後期  
遺物：土師器  
竪穴住居は造り付けのかまどを備えていました。火を焚いた部分（被熱面）が赤く残っています。

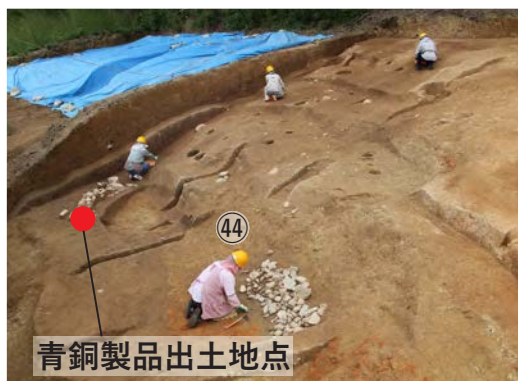
(南から)



## ③ 竪穴住居

時期：古墳時代後期  
遺物：土師器、須恵器  
③竪穴住居は、この建物が建てられる以前の⑫掘立柱建物と重なった状態で見つかりました。

(東から)



## ④④ 段状遺構

時期：鎌倉～室町時代  
遺物：土師器、瓦質土器、陶磁器、青銅製品  
段状遺構に伴う小さな穴からは青銅製品が出土しました。

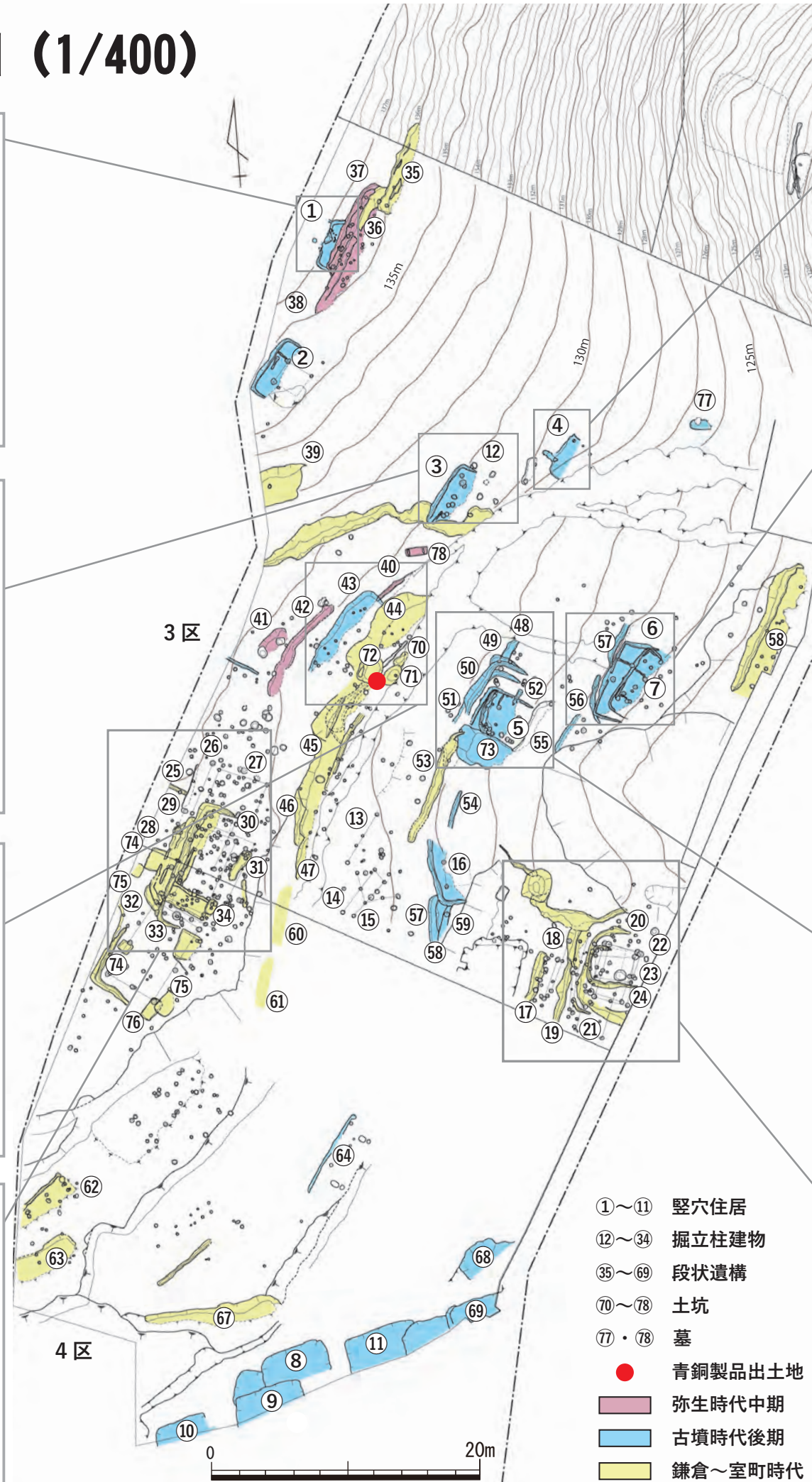
(北東から)



## ③③③ 掘立柱建物

時期：鎌倉～室町時代  
遺物：土師器、陶磁器  
大きく造成された平坦面で、掘立柱建物が4回程度建て替えられていました。

(南から)



- ①～⑪ 竪穴住居
- ⑫～③④ 掘立柱建物
- ③⑤～③⑨ 段状遺構
- ⑦⑩～⑦⑧ 土坑
- ⑦⑦・⑦⑧ 墓
- 青銅製品出土地
- 弥生時代中期
- 古墳時代後期
- 鎌倉～室町時代

時期：古墳時代後期  
遺物：土師器

壁面にかまどを備えた竪穴住居です。4個の土師器がかまどの横に残されていました。



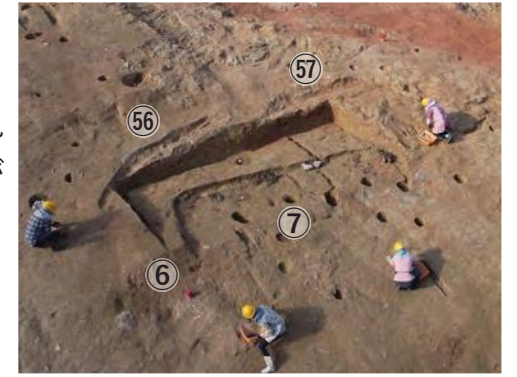
(南東から)

時期：古墳時代後期  
遺物：土師器、須恵器、鉄器

壁際に炭化した木材が見つかり、焼失した可能性がある竪穴住居です。



炭化した木材



(南東から)

時期：古墳時代後期  
遺物：土師器、須恵器、管玉

かまどを壁面に備えた⑤竪穴住居は、④⑧～④⑫段状遺構、④⑬土坑と重なった状態で見つかりました。



(東から)

時期：鎌倉～室町時代  
遺物：瓦質土器、備前焼

大きく造成された平坦面の上で、掘立柱建物が8棟見つかりました。同じ場所で7回程度建て替えられていたことが分かります。



(南から)